



1 「沼田城址」(沼田公園(西倉内町594)) P有り

沼田城は天元元(1532)に沼田氏12代万鬼斎顕泰が築いたもので、当時は城内と呼ばれていた。天正8年(1580)に武田勝頼の武將真田昌幸が入城し、城の規模を広げた。天正15年(1587)に昌幸の長男信幸(之)が沼田二万石の初代城主となり、その後5代19年間の真田氏の居城となる。また、慶長2年(1597)には五層の天守閣を建造し、慶長19年(1614)頃に名城下町としての形態をととのけてきた。天和元年(1681)、真田氏5代沼田藩主信利が江戸幕府に領地を没収され、翌年1月に沼田城は幕府の命により完全に破壊され、その後天守閣は再建されなかった。



櫓台石垣・御殿桜



旧生方家住宅



旧土岐家住宅洋館

2 「平八石」(沼田公園(西倉内町594)) P有り

真田昌幸が沼田平八郎景義の首を実験の後に献上したと言われている。沼田平八郎景義は、沼田万鬼斎顕泰の側室(金子美濃守の妹)の子であったが、内紛により会津・上野と暮らしていた。天正9年(1581)、沼田城奪還のために挙兵し沼田に迫ったが、伯父である金子美濃守に「沼田城を明け渡す」と欺かれ、沼田城内に引き入れられたところを殺害された。七郎は小沢城址に葬られ、沼田大明神として祀られている。



3 「城鐘」(中央公民館(東倉内町829-1)) P有り

この鐘は、寛永11年(1634)に真田氏2代沼田藩主信吉が鋳造させ、沼田城三の丸の楼に掛けて時報に用いた。総高114cm、厚さ6cm、口径67.6cm、全体の型として古式を襲い江戸時代初期の代表的なものであり、「この鐘の音は領内領民を安らかにし、領主の長久を祈るもの…」という意味の文が刻まれている。



城鐘

天和元年(1681)に真田氏が改易となったため平等寺の鐘鐘になったが、その後明治32年に沼田町役所敷地内に建てられた鐘楼に移され、昭和39年(1964)に市庁舎改築で鐘楼が取り壊されるまで市民に時鐘として使われた。「鐘樓」に吊され時を告げていた。現在は上州沼田真田丸展に展示されている。



沼田公園の鐘樓

4 「十一面観音像・「奉納灯籠」(三光院(柳町392)) P有り

三光院には県指定重要文化財の十一面観音像、真田氏5代沼田藩主信利が奉納したという石灯籠がある。この十一面観音像は、ヒノキ材の寄木造りで六臂の立像。玉眼(水晶はめ込みの眼)。像高187cm。昭和52年に修理を行い、その際に解体したところ、首部の内ぐりの部分に墨書銘が見つかり、彫刻着手は永禄7年(1270)9月16日で、彫刻師は快興、発願者は僧の慶賢であることが分かった。



十一面観音像

応永13年(1406)に群馬郡部分の村上出陣する者が利根に侵入し、沼田の支城の川田・名胡桃両方を攻撃した。沼田氏8代景朝は兵を率いて村上を攻め滅ぼしたが、この観音像を持ち帰り、観音堂を建てて安置し今に伝えられたという。



観音堂と奉納灯籠

また、観音堂前には真田氏5代沼田藩主信利が奉納したという石灯籠が2基あり、また観音室内には信利の夫人が奉納したという木彫りの白馬2体がある。

5 「名胡桃城址」(みなかみ町下鐘3437) P有り

上杉氏・武田氏・後北条氏は沼田城の奪奪を繰り返していたが、天正7年(1579)、武田勝頼の命を受けた真田昌幸が名胡桃城を築き、ここを前線基地として天正9年(1580)に沼田城を攻撃した。



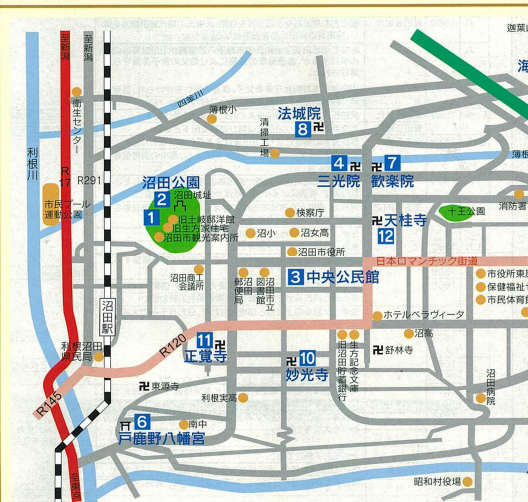
天正17年(1589)、昌幸は豊臣秀吉の仲介により沼田城を後北条氏に明け渡したが、沼田城代備後景憲は秀吉が天正15年(1587)に大名間の内戦を察して、関東無抵抗を無視して真田領であった名胡桃城を攻撃。それがきっかけになり小田原征伐が行われ、後北条氏は滅亡した。現在も堀跡などの遺構が残されており、群馬県指定史跡にもなっている。

6 「戸鹿野八幡宮」(戸鹿野町800) P有り

戸鹿野八幡宮は、沼田城主代々の守護神であった。沼田藩主沼田顕泰が享禄3年(1530)8月15日に後陣八幡宮を迎えて現在地に祀り城の守護神とした。金山城主白良氏が攻めてきて苦戦した際に、山崎多勢が職陣上空を舞い蹴を混戦させて勝利をおさめた地元の伝承がある。



天正18年(1580)に真田昌幸が出陣に際して祈願して以来、代々武神として崇敬された。現在の神社本殿は万治元年(1658)に建てられたものであり、境内には伊藤伊城上戸村の石工による亀甲積みの石垣や大鳥居をはじめとした多くの石工物がある。



「沼田城絵図」(国立公文書館内閣文庫所蔵)

沼田城絵図は、正保年間(1644~1647)に幕府が命じて諸藩に作成させた正保城絵図の一つであり、真田氏第4代沼田藩主信政が提出したものである。(原寸法176cm×234cm)。157点あったと記録があるが、火災などで失われ、国立公文書館内閣文庫に所蔵されているのは83点にとどまっており、その全てが国の重要文化財に指定されている。なお、群馬県内の城絵図で現存するのは唯一沼田城だけである。



昭和60年、沼田公園内にある鍛小屋の老朽化に伴う新築工事を行った際に、櫓台の東側に石垣及びそれに付属する石段が掘り出された。石段は櫓台の南端に向かう方向に傾斜している。また、この調査時に磁や瓦などの瓦片、肥前(有田)や瀬戸美濃産の陶磁器、景徳鎮などの中国磁磁器が出土した。ほかにはすり鉢、焼塩壺、かわらび等が出土している。この遺構や遺物は、出土の状況から真田氏時代のものであると考えられる。

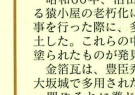
金箔瓦は、豊臣秀吉が築いた大塚城で多用されたが、豊臣氏一門やそれに準じた大名の居城、また秀吉側の大名の居城でも出土している。沼田城周辺では、上田城、小諸城、松本城からも発見されている。



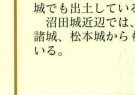
金箔瓦



陶磁器類



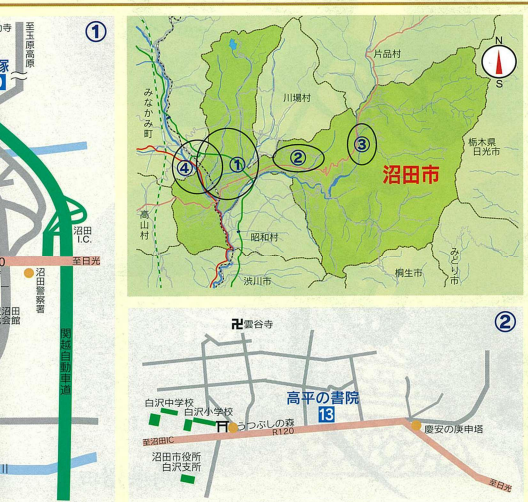
焼塩壺



磁瓦

7 「千手観世音菩薩坐像」(歓楽院(柳町390-1)) P無し

歓楽院の千手観世音菩薩坐像は、像体・台座・扉子ともに漆箔の精巧で華麗な像である。頂上仏・脇手などはほゞきつており、銅形の光背に巧みな技法が見られる。像高16cm。寛文3年(1663)に、真田氏5代沼田藩主信利が沼田城の鬼門除けとして月夜野にあった歓楽院法蔵寺を移築城跡に移し、この千手観音を本尊としたことから、「真田観音」と呼ばれた。この観音像は、4月29日の観音祭当日のみ拝観することができる。



平慶9年から13年にかけて、本丸西櫓台の一部とその周辺部において発掘調査が行われた。この調査により、櫓台の東側に石垣及びそれに付属する石段が掘り出された。石段は櫓台の南端に向かう方向に傾斜している。また、この調査時に磁や瓦などの瓦片、肥前(有田)や瀬戸美濃産の陶磁器、景徳鎮などの中国磁磁器が出土した。ほかにはすり鉢、焼塩壺、かわらび等が出土している。この遺構や遺物は、出土の状況から真田氏時代のものであると考えられる。

金子美濃守の墓(利根町大塚地内)に設置された。顕泰は家督を三男の朝憲に譲り景義とともに天神城に移ったが、景義を沼田氏の後継者にしようとする朝憲を天神城で謀殺した。朝憲の妻・家臣らは朝憲の妻の父である飯城城主代北条高広の援助を得て天神城を攻め、顕泰と景義は会津に落ち延びた。沼田城は城上不住となり、金子美濃守は上杉氏、北条氏、真田氏に次々と従った。沼田平八郎景義が天正9年(1581)に沼田城奪回のために挙兵したが、真田昌幸が恩賞を約束されて景義を謀殺するよう命じられた金子美濃守は、「沼田城を明け渡す」と景義を打ち殺し、城内に引き入れ殺害した。しかし、その後昌幸から逃がされ、失意のまま生涯を終えたとのことである。

金子美濃守は、沼田万鬼斎顕泰に仕えた重臣であった。顕泰の側室は金子美濃守の妹で、沼田平八郎景義は朝。顕泰は家督を三男の朝憲に譲り景義とともに天神城に移ったが、景義を沼田氏の後継者にしようとする朝憲を天神城で謀殺した。朝憲の妻・家臣らは朝憲の妻の父である飯城城主代北条高広の援助を得て天神城を攻め、顕泰と景義は会津に落ち延びた。沼田城は城上不住となり、金子美濃守は上杉氏、北条氏、真田氏に次々と従った。沼田平八郎景義が天正9年(1581)に沼田城奪回のために挙兵したが、真田昌幸が恩賞を約束されて景義を謀殺するよう命じられた金子美濃守は、「沼田城を明け渡す」と景義を打ち殺し、城内に引き入れ殺害した。しかし、その後昌幸から逃がされ、失意のまま生涯を終えたとのことである。

金子美濃守は、沼田万鬼斎顕泰に仕えた重臣であった。顕泰の側室は金子美濃守の妹で、沼田平八郎景義は朝。顕泰は家督を三男の朝憲に譲り景義とともに天神城に移ったが、景義を沼田氏の後継者にしようとする朝憲を天神城で謀殺した。朝憲の妻・家臣らは朝憲の妻の父である飯城城主代北条高広の援助を得て天神城を攻め、顕泰と景義は会津に落ち延びた。沼田城は城上不住となり、金子美濃守は上杉氏、北条氏、真田氏に次々と従った。沼田平八郎景義が天正9年(1581)に沼田城奪回のために挙兵したが、真田昌幸が恩賞を約束されて景義を謀殺するよう命じられた金子美濃守は、「沼田城を明け渡す」と景義を打ち殺し、城内に引き入れ殺害した。しかし、その後昌幸から逃がされ、失意のまま生涯を終えたとのことである。

金子美濃守は、沼田万鬼斎顕泰に仕えた重臣であった。顕泰の側室は金子美濃守の妹で、沼田平八郎景義は朝。顕泰は家督を三男の朝憲に譲り景義とともに天神城に移ったが、景義を沼田氏の後継者にしようとする朝憲を天神城で謀殺した。朝憲の妻・家臣らは朝憲の妻の父である飯城城主代北条高広の援助を得て天神城を攻め、顕泰と景義は会津に落ち延びた。沼田城は城上不住となり、金子美濃守は上杉氏、北条氏、真田氏に次々と従った。沼田平八郎景義が天正9年(1581)に沼田城奪回のために挙兵したが、真田昌幸が恩賞を約束されて景義を謀殺するよう命じられた金子美濃守は、「沼田城を明け渡す」と景義を打ち殺し、城内に引き入れ殺害した。しかし、その後昌幸から逃がされ、失意のまま生涯を終えたとのことである。

金子美濃守は、沼田万鬼斎顕泰に仕えた重臣であった。顕泰の側室は金子美濃守の妹で、沼田平八郎景義は朝。顕泰は家督を三男の朝憲に譲り景義とともに天神城に移ったが、景義を沼田氏の後継者にしようとする朝憲を天神城で謀殺した。朝憲の妻・家臣らは朝憲の妻の父である飯城城主代北条高広の援助を得て天神城を攻め、顕泰と景義は会津に落ち延びた。沼田城は城上不住となり、金子美濃守は上杉氏、北条氏、真田氏に次々と従った。沼田平八郎景義が天正9年(1581)に沼田城奪回のために挙兵したが、真田昌幸が恩賞を約束されて景義を謀殺するよう命じられた金子美濃守は、「沼田城を明け渡す」と景義を打ち殺し、城内に引き入れ殺害した。しかし、その後昌幸から逃がされ、失意のまま生涯を終えたとのことである。

金子美濃守は、沼田万鬼斎顕泰に仕えた重臣であった。顕泰の側室は金子美濃守の妹で、沼田平八郎景義は朝。顕泰は家督を三男の朝憲に譲り景義とともに天神城に移ったが、景義を沼田氏の後継者にしようとする朝憲を天神城で謀殺した。朝憲の妻・家臣らは朝憲の妻の父である飯城城主代北条高広の援助を得て天神城を攻め、顕泰と景義は会津に落ち延びた。沼田城は城上不住となり、金子美濃守は上杉氏、北条氏、真田氏に次々と従った。沼田平八郎景義が天正9年(1581)に沼田城奪回のために挙兵したが、真田昌幸が恩賞を約束されて景義を謀殺するよう命じられた金子美濃守は、「沼田城を明け渡す」と景義を打ち殺し、城内に引き入れ殺害した。しかし、その後昌幸から逃がされ、失意のまま生涯を終えたとのことである。

金子美濃守は、沼田万鬼斎顕泰に仕えた重臣であった。顕泰の側室は金子美濃守の妹で、沼田平八郎景義は朝。顕泰は家督を三男の朝憲に譲り景義とともに天神城に移ったが、景義を沼田氏の後継者にしようとする朝憲を天神城で謀殺した。朝憲の妻・家臣らは朝憲の妻の父である飯城城主代北条高広の援助を得て天神城を攻め、顕泰と景義は会津に落ち延びた。沼田城は城上不住となり、金子美濃守は上杉氏、北条氏、真田氏に次々と従った。沼田平八郎景義が天正9年(1581)に沼田城奪回のために挙兵したが、真田昌幸が恩賞を約束されて景義を謀殺するよう命じられた金子美濃守は、「沼田城を明け渡す」と景義を打ち殺し、城内に引き入れ殺害した。しかし、その後昌幸から逃がされ、失意のまま生涯を終えたとのことである。

金子美濃守は、沼田万鬼斎顕泰に仕えた重臣であった。顕泰の側室は金子美濃守の妹で、沼田平八郎景義は朝。顕泰は家督を三男の朝憲に譲り景義とともに天神城に移ったが、景義を沼田氏の後継者にしようとする朝憲を天神城で謀殺した。朝憲の妻・家臣らは朝憲の妻の父である飯城城主代北条高広の援助を得て天神城を攻め、顕泰と景義は会津に落ち延びた。沼田城は城上不住となり、金子美濃守は上杉氏、北条氏、真田氏に次々と従った。沼田平八郎景義が天正9年(1581)に沼田城奪回のために挙兵したが、真田昌幸が恩賞を約束されて景義を謀殺するよう命じられた金子美濃守は、「沼田城を明け渡す」と景義を打ち殺し、城内に引き入れ殺害した。しかし、その後昌幸から逃がされ、失意のまま生涯を終えたとのことである。

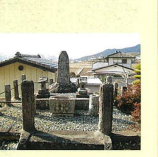
8 「小沢城跡」(法城院(町田町甲2038ほか)) P有り

小沢城は、沼田氏8代景朝が応永12年(1405)に小沢川の崖頭に築いた城である。永正16年(1519)に幕府へ移るまでの代14年間の居城であった。東側は小沢川の崖、西北は内外二重に堀を構え手廻りには開き東側の「打」で御防されており、堀・土層等が現在も残されている中世の城跡である。京都府相模守の「万里集九の漢詩文集には「長享二年(1488)九月三十日、沼田郡に暮き殿に宿るとある。小沢城は沼田郡・沼田城とも呼ばれていた。なお、同じには「沼田大明神」として金子美濃守に祀られた沼田平八郎景義が祀られている。



9 「海野塚」(岡谷町1116-3) P無し

真田昌幸は、沼田城を天正8年(1580)6月に手中に収め、真田一族の海野能登守輝幸を二の丸、藤田信吉を本丸城代とした。金子美濃守を執事に据えた。輝幸の兄の幸光は岩櫃城代であった。この兄弟をわせた者の「海野は北条と通する」との讒言を信じた昌幸は、弟の信吉に命じてまず幸光を急襲して討ち、たまたに沼田城に入った。輝幸は、主家に心無き証をたて、と進軍する日野守途中、岡谷地内で真田陣に追撃された。輝幸は真田の援軍役田口又左衛門と沼田一の養子本丸右衛門を一刀で討ち、「無益の犠牲はこれにて」と娘婿幸貞と押し違え入刃した。父子をこれに葬り、海野塚と称した。



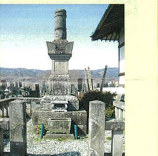
10 「慶寿院殿の墓」(妙光寺(坊新田町1104-1)) P有り

真田氏2代沼田藩主信吉の側室であり、5代藩主信利の母であった慶寿院殿の墓である。寛文7年(1667)に妙光寺を改築して慶寿山妙光寺と寺名を改め、自ら開基となり、寛文9年(1669)5月27日に没した。なお、この寺には、改易により沼田におけるとなった加藤清正の孫の加藤藤正正良、正良の母法楽院殿の墓もある。



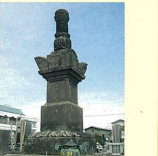
11 「大連院殿の墓」(正覚寺(鍛冶町938)) P有り

真田氏初代沼田藩主信幸(之)の正室であった、大連院殿の墓である。大連院は、徳川家康の重臣本多忠勝の娘で名は小松姫といひ、家康が嫁女にして天ヶ原の戦の際には、上田に居る父昌幸・幸幸村のみが沼田城を語ったことを不審に感じ、入城を拒んだことで女夫とつたといわれる。元和6年(1620)に病み、養育のため江戸から草津に送る途中の2月24日に武蔵国鴻巣で没した。48歳。同所で火葬にして分骨し、同所の勝願寺・沼田の正覚寺・上田の芳泉寺にそれぞれ葬られた。



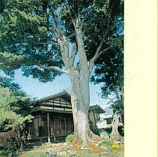
12 「真田河内守信吉の墓」(天桂寺(材木町144)) P有り

真田氏2代沼田藩主であった、信吉の墓である。「天桂院殿前河州太守 月岫浄理大居士 遊野朝臣真田信吉 寛永十一甲戌歲十一月念八日」の刻印があり、屋蓋に真田家の紋「大連銭」が刻まれた総丈297cmの宝篋印塔である。信吉は、初代沼田藩主信幸(之)の長男。元和2年(1616)に父信幸(之)が沼田から上田に移ったために2代沼田藩主となったが、寛永11年(1634)11月28日に江戸屋敷で没した。40歳。遺骸は沼田へ送られ、迦葉山で火葬しこの寺に葬られた。



13 「高平の書院」・「書院の五葉マツ」(白沢町高平1305-1) P可

慶安2年(1649)、真田氏4代沼田藩主信政が新田開発・宿願等を行った際に設置され、その後は城主の沼田領内見回りや戦時の際の休憩所として利用された。その当時、敷地内には7棟の建物が配置され、書院はその一部と伝えられている。木造1層1間(151m)。書院は石造りとして貴重なものである。建物のすく前にそびえる木は、推定樹齢約400年、高さ18m、目通り2.5mの五葉マツであり、書院設置の際に庭木として植樹されたものと伝えられる。また、こより国道120号線を日光方面に約350m進んだ高平三本辻という場所に、慶安の宿願を記念する吉い申塔がある。



14 「金子美濃守の墓」(利根町大塚地内) P無し

金子美濃守は、沼田万鬼斎顕泰に仕えた重臣であった。顕泰の側室は金子美濃守の妹で、沼田平八郎景義は朝。顕泰は家督を三男の朝憲に譲り景義とともに天神城に移ったが、景義を沼田氏の後継者にしようとする朝憲を天神城で謀殺した。朝憲の妻・家臣らは朝憲の妻の父である飯城城主代北条高広の援助を得て天神城を攻め、顕泰と景義は会津に落ち延びた。沼田城は城上不住となり、金子美濃守は上杉氏、北条氏、真田氏に次々と従った。沼田平八郎景義が天正9年(1581)に沼田城奪回のために挙兵したが、真田昌幸が恩賞を約束されて景義を謀殺するよう命じられた金子美濃守は、「沼田城を明け渡す」と景義を打ち殺し、城内に引き入れ殺害した。しかし、その後昌幸から逃がされ、失意のまま生涯を終えたとのことである。

